書評・Book Review

魚類学雑誌
52(1): 51

決定版　日本のハゼ. 一監修　瀬能　宏，写真　矢野維幾，解説　鈴木寿之・渋川浩一．2004．平凡社．東京．534 pp. ISBN4-582-54236-0．3,800円（税別）．

魚類に興味のあるアマチュアナチュラリストやダイバーにとって，ハゼ（ハゼ亜目魚類）というのは種類が多くて区別が難しいものだと思われている．魚類学者でさえ，ハゼ研究者以外からは「ハゼはよくわからん」といって，詳しく区別することを敬遠されているかもしれない．実際ハゼ亜目の種数は多く，日本産として公式に記録されているだけで425種に達する．「一般的な」感覚から言えば，これだけでも十分に種数は多いし，記載もほぼ完了していると思われるかもしれない．ところが，『決定版　日本のハゼ』では，既知種335種のカラー写真に加えて135種もの未記録種・未記載種を鮮明なカラー写真で掲載しており，これで将来的に日本のハゼの種数が550種は超えるであろうことが示された．まだまだ日本のハゼの種数は増えるのである．これは驚くべき多様性だと言わざるをえないだろう．

それでは，なぜこれほどハゼの種数は多いのだろうか？「日本のハゼ」の総説においても簡単に触れられているが，おそらく細かな環境の違いを利用して多様に分化しているからであろう．つまり，日本におけるハゼの多様性は，日本の水環境の多様性のあらわれだということができるかもしれない．環境省のレッドリストに掲載された絶滅のおそれのある76種・亜種のうち，35種・亜種がハゼであることは，そうした多様な水環境の人為的な変化によるのだろう．また，多様化の機構についてつけ加えるとすれば，多彩な社会行動によって生じる性淘汰なども関与しているかもしれない．近年の学会発表や論文を見ていても，ハゼを対象にした生態学や進化学に関する研究は興味深い成果を挙げている．しかし，ハゼがいかに驚異的な多様性を持っており，生物学の研究対象としてのポテンシャルを有していようとも，多くの研究者やナチュラリストがその魅力を理解してくれなければ，「ハゼはよくわからん」という状態のまま記載も進まず，多様性の謎も一部の研究者の努力によってしか解明されないかもしれない．

では，どのようにすれば魅力が伝わるのか？　一つの方法は，この本のような図鑑の出版であろう．既知種・未知種を含めて470種ものハゼが掲載されているが，その魅力や多様性を伝えるための写真はすばらしく美麗であり，ただ眺めるだけでもハゼの多様性に酔いしれてしまうくらいである．あまりにもハゼばっかりなのでクラクラするといったほうが正しいかもしれないが（笑），魚類学者にとっては未報告のハゼ類を多数収録した資料として，ダイバーにとってはこれまでの図鑑に無かった種についての情報交換のための基礎資料として，多少のハゼ酔いは我慢する価値があるだろう．写真の誤同定も例外的なものを除いては見いだせなかったので，資料としての信頼性も高い．また，巻頭にはハゼについての簡単な総説があるので，ハゼの分類や生態，生息環境についての基礎を知るにも有用であり，いくつかあるコラムも興味深い．ただし，未記録種のほとんどは和名も学名も未確定なので，『○○属の1種—1』などの表記が多く，やや混乱的かもしれない．凡例に重要な情報が記されているので，ある程度専門的な知識を有する読者は必ず目を通す必要があるだろう．

また，この本は水中撮影の難しい泥干潟や汽水域の種は掲載していない．それは著者らが生態写真にこだわった結果であり，凡例の『写真について』の説明を読むと一徹さがにじみ出ている．つまり，「水槽内写真は一切掲載していない．泥中に生息するものを採集した後，別のところで撮影するという方法で得られた写真も使用していない．すべてありのままの生態写真である」という宣言である（「　」内は引用）．さらに，地理的変異も考慮して海外の同種の写真も一切掲載していないとのことである．こうした点で，掲載された写真の内包する情報の信頼性は非常に高いのだが，その反面，図鑑としての網羅性が犠牲になっている．90種の日本産ハゼが未掲載だが（未掲載種のリストも記されている），野外での生態写真にこだわらなければ，それらも含めてほとんど全てのハゼを網羅することも可能だったはずである．賛否はあるかもしれないが，泥で濁った汽水や淡水のハゼ類を図鑑に掲載するのは今後の課題ということなのだろう．

いずれにしても，ハゼたちの美しさや愛らしさを写真で魅せ，いかに多くの未記録種が残っているかについてアピールするという点ではかなり成功している本だと思われる．著者の一人である鈴木寿之氏はあとがきで，この図鑑を叩き台としてダイバーの方々の協力のもとにハゼの分類学的研究が進むことを期待すると書いており，今後の研究を担う若いハゼ研究者の増加も望んでいるようである．評者も全く同感である．魚類の中で最も多様な分類群の一つであるハゼの分類やナチュラルヒストリーを明らかにするためには，研究者・アマチュアを問わず多くの方々の協力が必要であろう．

（向井貴彦　Takahiko Mukai：〒501-1193　岐阜市柳戸1-1　岐阜大学地域科学部　e-mail: tmukai@cc.gifu-u.ac.jp）